

平成31年1月8日(火)

本日から生徒登校す

正月も明けた。生徒が登校する。センター試験まで10日になった。

本年の目標は、「他者と共生し、同化する力の育成」を達成する道筋を獲得することとしたい。

様々な修行の中で、目標とする能力は、「集団をひとつにまとめる力」であると、内田樹は「修行論」に書いている。

臂力（腕力に象徴される力のこと）に勝る個人があたりを威圧し、衆人を恐怖させ、屈服させても、集団を形成することは可能である。だが、それは一定の規模を超えることができない。恐怖や暴力によって、あるいは利益誘導によって統合された集団は、別種の恐怖や暴力や利益誘導によって簡単に瓦解する。

腕力や権威やある力の行使によって、人が集まることは可能であるが、その力は決して集団を維持することができない。個人的な利益誘導をもって鼻先をたたいたとしても、やがて違う利益誘導によって人はすぐに目の前から散っていくだろう。

磐城高校で学んだことは、個人的利益誘導からではない社会貢献への使命感であり、責任感であったと思う。そのことは、人を突き動かし、人を集める大きな力であることは疑いないことだ。

その一筋の力を、志の力、志への共感、志による集合体への信頼とでも呼んでよい力であると考えてる。

もっと簡単に言うと、正しいことを正しいとして、よきことをよき行いとして、自分から進んで行おうとする意思決定を速やかに連続することを集団として維持するとでもいおうか。

かつて同じ空気を吸い、同じ時間を共有しながら、目標をもって妥協しない、権威に屈服しない、何が大切かいつも考える、物おじしないできちんと言いたいことを伝える、磐城高校の志のもとに集結することを学んでいたはずだ。

それは間違いなく、この学校だからこそできたことで、この学校だからこそいつまでも伝えなければならない不朽の精神であると思う。

生徒諸君、このことは図らずも明治の時代から平成の時代を超えていく変わらない磐城高校の本質であるのです。ことあるごとに、このことについてうまく伝えていければと肝に銘じていきます。